**令和元年11月15日**

**杵築城跡の国指定史跡への文化審議会答申について**

**杵築市長　永松　悟**

**この度、杵築城跡が国指定の史跡に答申されました。第一報を受け、杵築市民として大変喜ばしいことと思いますとともに、先人たちが築きあげた我がまちを誇りに思う次第です。**

**今回の指定においては、平成24年度から指定にご尽力いただいた、杵築城跡の調査指導委員の諸先生方、文化庁、大分県教育委員会、そしてなにより指定されるまでに、ご理解とご協力いただいた地域の方々と杵築中学校の生徒の皆さんに厚くお礼申し上げます。**

**平成21年１月の藩主御殿跡発掘調査では、江戸時代を通じて杵築藩の中心として機能した藩主御殿の遺構および、その下層の江戸時代以前の可能性のある石垣や舟入が良好に遺存することが判明し、遺構を保存することにしました。**

**平成29年度からの台山の調査では、戦国時代末期に構築が開始され江戸初期の1615年（元和元）に一国一城令により破却されたと考えられる城郭を構成する石垣の一部が確認されました。**

**熊本大学附属図書館所蔵『松井文庫』にある「木付御城こわし申所付之帳」には破却される前の木付城の建物の数や規模が記載されており、江戸初期の城郭の建物構造が分かる資料として大変貴重です。**

**今回それを裏付ける資料が地中に良好に遺存していることが判明したことになります。**

**杵築市といたしましては、杵築中学校があった藩主御殿跡と現在模擬天守がある台山部分を含めて杵築城跡として、杵築市民のまちづくりの根幹や郷土の誇りとして後世に守り伝えるため、国指定を目指すこととしました。**

**そして今年、新たに杵築城跡の北城外に杵築中学校校舎を竣工し、生きた教材として国指定史跡を、身近に感じることができる環境で生徒の皆さんは、勉学に励んでおられます。**

**本史跡を見て、ふるさと杵築を誇りに思い、郷土愛を育み、市外に出てもふるさと杵築を自慢できるように、今後も杵築城跡をはじめとする江戸の風情を残す武家屋敷群を大切に保存・継承してまいりたいと思います。**

**今回、杵築城跡が国指定史跡に答申されましたが、先立って平成29年11月28日に杵築市の北台南台の武家屋敷群が国の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定をいただきました。**

**江戸時代末まで存続した城が国史跡に、隣接する近世城下町の一部が同じく国の****重要伝統的建造物群保存地区に選定を受けている例は全国では数例、九州では初です。**

**また、大分県における城跡の国の史跡指定は、１９３６年（昭和１１）の竹田市の岡城跡にはじまり、２００５年（平成１７）の玖珠町の角牟礼城跡に続いて３例目です。**

**杵築城下町は、河口の一番標高の低いところに城跡を構成する中心建物があり、それを望む台地の上に武家屋敷があり、その武家屋敷の間の谷に町屋があるという城下町の構成は、全国を見ても独特の形です。**

**国からお墨付きをいただいた全国でも屈指の城跡と城下町・江戸時代のたたずまいが色濃く残る「杵築」の文化財を杵築市民のまちづくりの核として、市民の皆様に誇りに思っていただける様に努力しつつ、今後とも後世に守り伝えていく所存です。**

**杵築城跡を保護し、守り伝えていくには市民の皆様のご理解とご助力、そして市外・県外の方々のご協力も必要となりますので、是非一度杵築城跡へ足をお運びいただきたく存じます。**